

1970年前後に米国で生まれたラップ音楽は、若者の自己表現方法として、あるいは社会的・政治的メッセージを運ぶ媒体や手段として、その後世界に広がっていきました。今回のワークショップでは、二人の文学研究者をお招きし、パレスチナとイタリアのラップ音楽の言語表現について、ジェンダーや社会運動との関わりから、紹介と議論をしていただきます。

グローバル関係学科研、イスラーム・ジェンダー学科研 共同主催

# ラップ ジェンダー 社会運動

パレスチナのラップとジェンダー  
山本 薫（慶應義塾大学）

イタリアのラップにおける抗議の声  
小久保 真理江（東京外国語大学）

司会 : 後藤絵美（東京大学）  
登壇者 : 山本薫（慶應義塾大学）  
          : 小久保真理江（東京外国語大学）  
コメント : 福田宏（成城大学）  
          : 鈴木啓之（東京大学）

2020. 2. 13

17:00-20:00

東京大学 東洋文化研究所 3階大会議室

◆主催：科研費新学術領域研究「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて」B01班「規範とアイデンティティ」（代表：酒井啓子）  
          科研費基盤研究(A)「イスラーム・ジェンダー学の構築のための基礎的総合的研究」（代表：長沢栄治）  
◆共催：東京大学 東洋文化研究所